子供の職業体験イベントを通じたロコモ予防啓発活動の試み

 ふくい整形外科リウマチリハビリクリニック

 理学療法士 福井　友賀

2019年12月8日に愛知県豊川市で開催された地域活性化イベント「こどものまち」における当院のロコモ予防啓発活動の試みについて報告する。

このイベントでは未就学児から小学校低学年を対象に職業体験コーナーが企画され、当院は理学療法士が体験できるブースとして出店した。内容は理学療法士が指導のもと、参加した子供がそれぞれの親に対して立ち上がりテスト、2ステップテストの計測ならびにロコモ25（内容を吟味して25項目の中の7項目を抽出し、子供がわかりやすい言葉に改変して使用）の記載をしてもらい、ロコモ度の評価を行った。ロコモ度の結果を踏まえ、参加者の親に対して理学療法士からロコトレの指導を行った。

今回のイベントにおける当ブースの来訪者が想定よりも少なかったことからロコモ予防啓発活動については不十分であったと考える。この原因について検討し、以下の三つの要因を考えた。

一つ目の要因として、今回が第1回目のイベントであったことから運営側も手探りの状態であり、運営側と当院の事前の打ち合わせが不十分であった。そのため、当院のロコモ予防啓発のために参加しているという意図が運営側に十分に伝わらず、意図した啓発活動ができなかった。具体的にはブースのキャッチコピーが当院の意図するものにならなかったことがあげられる。

二つ目の要因として、“警察”や“歯医者”と比較して“理学療法士”という職業のイメージがつきにくいことが影響したと考える。ブース来訪者から理学療法士がどういう職業なのかと質問されることが度々あった。

三つ目の要因として、今回のイベントは小学校低学年の両親の参加が多く、祖父母と共に来場される方が少なかった。ロコモの啓発を必要とする年齢層の来訪者が少なく、効率よい啓発活動ができたとは感じられなかった。

来年第2回目のイベントが開催された場合は今回の経験をもとにより戦略的にロコモ予防の啓発に取り組んでいきたいと思う。